

加賀市 観光戦略プラン

加 賀 市

第1章 加賀市観光戦略プラン策定にあたって

- 第1節 背景
- 第2節 目的
- 第3節 実施期間

第2章 加賀市の目指す姿について

- 第1節 現状
- 第2節 課題
- 第3節 数値目標
- 第4節 コンセプト

第3章 加賀市観光戦略プランの概要

- 第1節 加賀市観光戦略プラン概要図
- 第2節 戦略・施策・事業の概要
- 第3節 戦略推進に向けた関係者の役割

第4章 展開する事業の詳細

- 第1節 戦略1：受け入れ態勢の整備
- 第2節 戦略2：情報発信・誘客の強化
- 第3節 戦略3：海外集客（インバウンド観光）の推進
- 第4節 戦略4：実態把握と改善

第5章 総括

第1章 加賀市観光戦略プラン策定にあたって

第1節 背景

今回の『加賀市観光戦略プラン（以下、観光戦略プラン）』策定の背景には、加賀市の観光を取り巻くいくつかの外部要因・内部要因が明確になっており、その要因に対応していくための具体的な指針を掲げていく必要があると考えているからです。

まず外部要因としては、平成27年3月に『北陸新幹線金沢駅開業』がありますが、このタイミングで金沢への来訪者が大きく増加することは明らかです。特に首都圏からのアクセスが格段に向上することから、新規来訪者及びリピート来訪者の増大が予想されることや、様々なメディアを通じた『北陸新幹線金沢駅開業』についての報道も大きく寄与していただろうと考えています。また、国内に限らず2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、外国人観光客の訪日が増加していくと見込まれておりますが、外国人観光客の北陸新幹線への注目も必然的に高まることが予想されます。昨今のアベノミクスでの景況感の好転も追い風となっています。

内部要因としては、加賀市の観光入込客数がかつて400万人であったのが、現状では200万人を切るまで減少してしまっていることが上げられます。これは日本の生産労働人口の減少や、若者の旅行離れによる自然的な影響に加え、観光地域間の観光客獲得競争が激化していることも理由ではありますが、加賀市内で捉えると旅館個別の集客に頼ってきてしまったことや、個人旅行への対応の遅れ、観光素材の活用が十分にできていないことなどが原因であると考えられます。山中・山代・片山津の各温泉地が個性・特性を活かし切磋琢磨しつつも、加賀市全体での取り組みが急務と感じます。

上記のような外部要因と内部要因を踏まえ、4年間にわたる観光戦略プランを策定するものとします。

第2節 目的

『北陸新幹線金沢駅開業』によって（特に首都圏からの）来訪者が金沢エリアに増大するタイミングを好機と捉え、加賀市への入込客数を最大化するための戦略を、3温泉地を中心に地域全体で推進し、入込客数178万人（平成26年見込）から、平成29年には36万人増加の214万人。これにより、観光消費額383億円（平成26年見込）を、77億円増加の460億円に達することを目標に掲げ、可能な限り早期実現を目指します。

第3節 実施期間

平成26年（2014年）10月1日（平成26年度下半期）から
平成30年（2018年）3月31日（平成29年度末）までとします。

第2章 加賀市の目指す姿について

第1節 現状

まずは加賀市を取り巻く環境について、以下の【発地別】（＝来訪者の居住地）【性年齢層別】【旅程別】【滞在時間】【流入・流出時間】【加賀市内周遊】【加賀市外周遊】に分類して調査を行った結果を踏まえて整理します。

＊「加賀市観光動態調査レポート資料」参照。

（調査対象：H25年4月1日～H26年3月31日の、加賀市居住者・通勤者、および7泊以上の旅程者を除き、加賀市内に45分以上滞在した10,435人）

【発地別】

◆地域別 …甲信越・北陸地域（新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県）からの来訪者が、加賀市来訪者全体の84.6%を占めます。

このうち、9割を石川県と福井県の来訪者が占めています。

【※来訪者＝宿泊と日帰りの来訪者】

◆都道府県別…①石川県(50.4%)②福井県(12%)③大阪府(6.3%)④愛知県(4.8%)⑤富山県(4.5%)となり、上位3県で68.7%を占めています。

⑥以降は関西地域の県が多いです。東京は⑨番目(2%)です。

◆市区町村別…①金沢市(18%)②小松市(16.9%)③白山市(6.1%)④福井市(3.7%)⑤坂井市(3.6%)近県以外では、⑦名古屋市(2%)⑨京都市(1.8%)⑩大阪市(1.8%)⑮神戸市(0.8%)⑯横浜市(0.8%)

【性年齢層別】

◆来訪者の性別構成比では、男性構成比が53.4%を占めています。

◆来訪者の年齢層構成比では、50歳以上が39.1%を占めています。

◆加賀市来訪者全体の性年齢層別カテゴリーシェア率と比較すると、甲信越・北陸発地者は、男性34歳までが特に多く、近畿発地者（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）は、女性の各年齢層が多くなっています。また、東海発地者は34歳まで男女が多く、首都圏発地者は50歳以上男女が多いです。

◆来訪者数の多い上位3県の性年齢層別特徴でみると、石川県来訪者は、男性34歳までが特に多く、福井県来訪者は、男性35歳以上、特に50歳以上が顕著に多いです。大阪府の来訪者内訳は、女性49歳までが特に多いです。

【旅程別】

- ◆加賀市来訪者の、56.4%は、加賀市内に宿泊しています。
- ◆甲信越・北陸からの来訪者は、日帰りが多いです。
県別内訳でみると、石川県と福井県からの来訪者は日帰りが多いです。
- ◆甲信越・北陸からの来訪者以外は、宿泊が大半を占めます。特に、近畿と東海からの来訪者は1泊が多く、首都圏からの来訪者は3泊以上が多いです。
- ◆日帰り者は、男性34歳までが特に多いです。
- ◆加賀市内1泊の来訪者の内訳では、女性の各年齢層が多いです。
- ◆加賀市内2泊の来訪者の内訳では、男性50歳以上が顕著に多く、女性35～49歳も多いです。

【滞在時間】

- ◆来訪者全体（宿泊、日帰り）の平均滞在時間は6時間55分です。
- ◆3つの温泉地は滞在時間が長くなっており、各温泉地での宿泊が多いと考えられます。
中でも、「山中温泉」の滞在時間が最も長いです。
- ◆来訪者の滞在時間内訳をみると、男性に比べ女性の滞在時間が長いです。
- ◆宿泊来訪者は、平均16時間30分程度の滞在をしますが、チェックインとチェックアウト間の時間とほぼ同じであり、加賀市内の回遊どころか、宿泊温泉地周辺の街歩きも行われていない可能性があります。
- ◆地域別の滞在時間（連休日比較）で見ると、長い順に下記のようになっています。
＜日帰り＞ ①山中温泉②片山津温泉③山代温泉④橋立
＜宿 泊＞ ①山中温泉②片山津温泉③山代温泉④橋立

【流入・流出時間】

＜日帰り＞

- ・流入：土・日曜は、10時頃から増え始め、ピークは11時～12時
- ・流出：土・日曜は、ピークは15時

＜宿泊来訪者＞

- ・流入：金・土・日曜は、14時頃から増え始め、ピークは、15時～16時
- ・流出：金・土・日曜は、ピークは、9時～10時

- ・宿泊来訪者は、1日目はチェックインに合わせ来訪、2日目はチェックアウト後、すぐに加賀市を離れていく来訪者が多いです。

【加賀市内周遊】

- ◆加賀市来訪者の平均周遊箇所数は、1.09箇所。あまり回遊が行われていません。
- ◆性年齢層別では、女性の平均周遊箇所数が多く、34歳までの層が1.12箇所と多いです。
- ◆旅程別では、日帰り来訪者の平均周遊箇所数が、宿泊来訪者に比べ少ないです。
- ◆50歳以上男女の平均周遊箇所数が多いです。
- ◆加賀市来訪者の来訪場所の周遊コースを見ると、多い順に、①山代温泉（32.2%）②片山津温泉（31.4%）③山中温泉（20.9%）④橋立（6.9%）⑤山代温泉⇔山中温泉（2.9%）となっており、来訪者の約9割は1つのエリアのみの来訪であり、加賀市内周遊が行われていない状況です。
- ◆わずかではありますが、加賀市内の複数エリアを周遊している来訪者がおり、その内訳は、多い順に、①山代温泉⇔山中温泉（2.9%）②片山津温泉⇔山代温泉（2.4%）③片山津温泉⇔橋立（1%）④片山津温泉⇔山中温泉（0.8%）⑤山代温泉⇔橋立（0.5%）となっており、TOP5の周遊ルートのうち、3ルートに「山代温泉」と「片山津温泉」が含まれています。

【加賀市外周遊】

- ◆加賀市来訪者の83%は、加賀市以外の地域の周遊は行っていません。
- ◆加賀市とセットで周遊が行われている地域は、多い順に、①金沢市（60.8%）②小松空港周辺（7.1%）③永平寺周辺（6.3%）④七尾市（4.4%）⑤金沢市&白川郷周辺（4.4%）と続きます。
- ◆加賀市とセットで、加賀市とは別の地域を複数周遊している来訪者の、上位5ルートのうち、4ルートが金沢市を含むことから、金沢市が周遊の拠点となっていることが分かります。
- ◆加賀市来訪者で、2泊された方は加賀市内1泊と加賀市以外の地域での1泊の割合が高いです。
- ◆加賀市内宿泊がある来訪者と、加賀市以外の地域での宿泊をした来訪者を比較すると、前者の来訪者の方が、平均周遊箇所数が多い傾向にあります。

第2節 課題

前節で示した加賀市の現状を踏まえて、今後、取り組んでいく必要がある課題を整理します。

課題1 加賀市来訪者の来訪目的の中心になっている温泉（宿泊）の魅力をより高めることです。

課題2 現状は、来訪者の中心的な性年齢層になっていませんが、石川県・福井県以外の地域からはすでに誘客できており、滞在時間の長さ、周遊箇所数の多さ（観光消費額も多い可能性が高い）と、長期的に加賀市の顧客になり続け得る可能性という点から、若い女性を意識したコンセプト（イメージ）作りを行うことです。

課題3 日帰り・宿泊の来訪者ともに、加賀市内での滞在時間を伸ばし、観光消費額を増やしてもらうために、温泉（総湯）、食（昼食）、観光（街）、イベントコンテンツの磨き上げと、それらを結ぶ加賀市内の交通アクセスの見直しを行うことです。

課題4 北陸新幹線の当面の終着駅であり、現在、加賀市来訪者がセットで周遊している人が多く、また、日帰り来訪者・宿泊来訪者ともに、加賀市の来訪者数が最も多い金沢市との連携強化、金沢市内からのアクセスの見直しを行うことです。

課題5 北陸新幹線金沢駅開業をきっかけに、現状来訪者の少ない首都圏での認知度を上げ、誘客を強化することです。また、北陸新幹線沿線の、群馬県・長野県・新潟県からの誘客強化を図ることも必要です。

第3節 数値目標

観光入込客数

今後3年間の観光入込客数の目標値を掲げ、達成に向け、戦略プランを推進します。

宿泊客

(単位:万人)

	宿泊入込客数	増加数(H26年対比)	伸び率(同左)
平成25年 実績	167	-	-
平成26年 見込	160	-	-
平成27年 目標	179	19	112%
平成28年 目標	181	21	113%
平成29年 目標	192	32	120%

日帰り

(単位:万人)

	日帰り入込客数	増加数(H26年対比)	伸び率(同左)
平成25年 実績	19	-	-
平成26年 見込	18	-	-
平成27年 目標	19	1	106%
平成28年 目標	20	2	111%
平成29年 目標	22	4	122%

宿泊+日帰り

(単位:万人)

	宿泊+日帰り 入込客数	増加数 (H26年対比)	伸び率 (同左)
平成25年 実績	186	-	-
平成26年 見込	178	-	-
平成27年 目標	198	20	111%
平成28年 目標	201	23	113%
平成29年 目標	214	36	120%

平成26年見込 : 平成26年上期の入込客数を基に算出

平成27年以降 : 平成26年9月時点での宿泊施設数を前提として算出

【観光入込客数について】

- * 市内温泉地の宿泊施設における宿泊入込客数と日帰り入込客数により算出
- * 日帰り入込客数については、今後、宿泊施設の日帰り入込客数のみでなく、観光庁の統計調査基準に基づく調査、携帯電話端末を利用した動態調査による分析等により加賀市全体の日帰り入込客数を把握するよう検討します。

【平成27年】

《宿泊》

- ◆現状、石川県の首都圏からの入込客数は、約230万人です。加賀市の首都圏からの入込客数は、その内の約6%にあたる13万人です。
- ◆石川県の平成27年度首都圏からの入込客数の目標値は500万人としています。
(出典元：新ほっと石川観光プランより)
- ◆石川県の入込客数500万人に対し、北陸新幹線金沢開業前後の首都圏におけるプロモーション強化により、石川県内におけるシェア6%を確保し、首都圏から30万人を誘客することを目指し、入込客数17万人の増加を目標とします。
- ◆景況感の底上げ、舞鶴若狭自動車道・京都縦貫自動車道の開通を機会とする関西圏・中京圏・北陸地域からの誘客強化と、台湾都市等との交流による海外誘客促進により、2万人の増加を目標とします。

《日帰り》

- ◆観光戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、1万人の増加を目標とします。

【平成28年】

《宿泊》

- ◆北陸新幹線金沢開業後2年目、函館新幹線の開通もあり、首都圏からの入込客数が前年よりもマイナスになる可能性も考えられますが、首都圏での積極的なプロモーションと観光戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、首都圏からの入込客数を前年水準に維持することを目標とします。
- ◆戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、首都圏以外の地域からの誘客の底上げと、インバウンド観光の推進により、2万人の増加を目標とします。

《日帰り》

- ◆観光戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、1万人の増加を目標とします。

【平成29年】

《宿泊》

- ◆北陸新幹線金沢開業3年目、これまでの首都圏での積極的なプロモーションと観光戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、首都圏からの入込客数の石川県来訪者シェアを6%から約7%へと拡大し、首都圏を中心とした都市圏から5万人の増加を目標とします。
- ◆戦略プランの事業実施により、加賀市の魅力を高めることで、首都圏以外の地域からの誘客の底上げ強化と、インバウンド観光のさらなる推進により、6万人の増加を目標とします。

《日帰り》

- ◆観光戦略プランの事業実施により加賀市の魅力を高めることで、2万人の増加を目標とします。

観光消費額

観光入込客数から観光消費額を算出し、地域への経済効果を測定します。

(単位:億円)

	観光消費額	増加額 (H26 年対比)
平成 25 年 実績	400	-
平成 26 年 見込	383	-
平成 27 年 目標	428	45
平成 28 年 目標	433	50
平成 29 年 目標	460	77

【算出方法】

《宿泊客》

{ (宿泊観光客数) × (加賀市内宿泊施設の「じゃらん net」の年間平均客単価) }
+ { (宿泊観光客数) × (「じゃらん宿泊旅行調査」の個人旅行の現地小遣い費用) }

*年間平均客単価と個人旅行の現地小遣い費用には、外国人客は含まない。

◆加賀市内宿泊施設の「じゃらん net」の年間平均客単価

⇒平成 25 年度実績 14,021 円

◆「じゃらん宿泊旅行調査」の個人旅行の現地小遣い費用

⇒平成 25 年度実績 9,100 円

1 人 1 泊あたりの観光消費額 23,121 円

《日帰り客》

日帰り客数 × 「観光動態調査(統計から見た石川県の観光)」日帰り観光消費額

*外国人客含む

◆「観光動態調査(統計から見た石川県の観光)」平成 25 年度日帰り観光消費額

1 人 1 回あたりの観光消費額 7,484 円

* 《宿泊客》と《日帰り客》の消費額の合計を観光消費額とします。

第4節 コンセプト

『加賀ていねい』

「コンセプト」とは

- ・加賀市の個性・習慣・文化を定義し、他との違いを明確にするものです。
- ・新しい未来に向けて、どのような行動をとればよいかを示唆し、進むべき方向に導く羅針盤になるものです。
- ・加賀市ならびに加賀温泉郷のブランドを強化するものです。

「コンセプト」の考え方

加賀市は美意識を大切にす地。古き良き文化を大切に、ただ、それだけではなく伝統を大切に楽しみながら、新しい良き文化へとしっかりとつないでいる街。

九谷焼や山中漆器、山代温泉・山中温泉・片山津温泉の宿の有り様を見ると、細部に美意識を伴ったこだわりを伺うことができます。また、郷土料理やお菓子にも美意識やこだわりを感じることができます。

これらから考察すると、古くから多くの文人墨客たちをはじめ、すでに加賀市を訪れている人たちは、加賀市に根付く【「ていねい」という心配りの精神】に魅了されてきたのではないのでしょうか。

ていねいは、愛情につながる。

ていねいは、信じられることにつながる。

ていねいは、気付くことを増やす。

そういった心配りの精神を、加賀市は昔から知っているように思います。だから、接客やサービスからも「ていねい」な態度を感じるのではないのでしょうか。

加賀市の観光の進む方向性を考えたとき、若い人たちに合わせた何か劇的なイメージチェンジをしていくのではなく、ありのままがいいのではないのでしょうか。

【「ていねい」という心配りの精神】を、持続的に未来につなげていけばよいのではないのでしょうか。

そのために、加賀市民に「ていねいにしよう」という精神をこれまで以上に意識してもらえるよう、言いやすさ、広がりやすさも考慮した言葉が『加賀ていねい』です。加賀市の目指すべき姿を体現した言葉です。

街全体で「加賀ていねい」の在るべき姿を追求していけば、

あの「加賀ていねい」を味わいたい。

あの「加賀ていねい」を体験したい。

あの「加賀ていねい」を自分の心にも取り入れたい。

と、考える来訪者を増やすことにもなります。それはすなわち、加賀市が備える温泉や文化、食などの観光資源に対して、品質保証とも言えるブランドを構成することにもつながっていきます。

【具体的活用例】

「加賀温泉郷」とセットで使用し、「名刺」「のぼり」「ポスター」「法被」などに使用します。

第3章 加賀市観光戦略プランの概要

第1節 加賀市観光戦略プラン概要図

第2章で掲げる加賀市の目指す姿について、これを達成するための「加賀市観光戦略プラン」を下記の概要図のとおりとします。

平成29年 達成目標

- ・観光入込客数 214万人（平成26年(見込)比 36万人増）
- ・観光消費額 460億円（平成26年(見込)比 77億円増）

加賀市コンセプト

加賀ていねい

4戦略／15施策／31事業

戦略1 受け入れ態勢の整備

施策

- 1 宿泊施設の魅力向上と効果的な戦略展開(事業1、2)
- 2 温泉地の魅力向上(事業3~5)
- 3 新たな食メニューによる地域の魅力向上(事業6)
- 4 魅力ある街並み景観を活用した誘客促進(事業7~8)
- 5 加賀温泉郷域内の回遊性向上と流入促進(事業9~15)

【5施策／15事業】

戦略2 情報発信・誘客の強化

施策

- 6 加賀温泉郷コンセプトの統一化(事業16)
- 7 送客機関への働きかけ(事業17)
- 8 エンドユーザーに向けた情報発信強化(事業18)
- 9 魅力あるイベントによる誘客促進(事業19~23)
- 10 MICE誘致による誘客促進(事業24)

【5施策／9事業】

戦略3 海外集客(インバウンド観光)の推進

施策

- 11 海外自治体との交流による誘客促進(事業25)
- 12 海外に向けたブランディング化(事業26)
- 13 外国人観光客に向けた情報発信と受け入れ態勢の強化(事業27、28)

【3施策／4事業】

戦略4 実態把握と改善

施策

- 14 動向調査による観光実態の把握(事業29、30)
- 15 現状分析による課題改善(事業31)

【2施策／3事業】

第2節 戦略・施策・事業の概要

戦略1 受け入れ態勢の整備

「1. 宿泊」「2. 温泉」「3. 食」「4. 景観」「5. 回遊性向上と流入促進」の受入態勢整備に関する5施策を進め、観光客が訪れたいくなる、訪れやすい、泊まりたいくなる、温泉を楽しみたいくなる、魅力的な温泉観光地を目指します。

施策1 宿泊施設の魅力向上と効果的な戦略展開

- 事業1 サービス向上に向けた宿泊施設への助成制度
- 事業2 宿泊施設における誘客強化組織の設立

施策2 温泉地の魅力向上

- 事業3 温泉街の賑わい創出
- 事業4 「総湯」の魅力向上と観光利用の促進
- 事業5 「総湯」による温泉地間の回遊性向上

施策3 新たな食メニューによる地域の魅力向上

- 事業6 「新ご当地グルメ」の開発

施策4 魅力ある街並み景観を活用した誘客促進

- 事業7 街並み景観保護に向けた取り組み支援
- 事業8 伝統的街並み（大聖寺・橋立・東谷）の観光活用

施策5 加賀温泉郷域内の回遊性向上と流入促進

- 事業9 「1泊2日3湯4食」定着化による域内回遊性の向上
- 事業10 地域バスの魅力創出による域内回遊性の向上
- 事業11 タクシー利用促進による域内回遊性の向上
- 事業12 レンタカー利用促進による域内回遊性の向上と流入促進
- 事業13 金沢からの高速特急バス定期運行による流入促進
- 事業14 広域連携による魅力ある観光コースづくり
- 事業15 地域の観光案内機能の強化

戦略2 情報発信・誘客の強化

多くの人に訪れていただくために、加賀温泉郷の魅力を的確に伝える情報発信や魅力あるイベントを実施するなど、効果的な誘客促進を図ります。

MICEを誘致するため、開催に対する宿泊助成制度の充実などにより積極的な誘致活動を行い、直接誘客に結びつく取り組みを展開します。

【参考】 MICEとは？

M e e t i n g (会議・研修・セミナー)

I n c e n t i v e t o u r (報奨・招待旅行)

C o n v e n t i o n または C o n f e r e n c e (大会・学会・国際会議)

E x h i b i t i o n (展示会)

施策6 加賀温泉郷コンセプトの統一化

事業16 「加賀ていねい」のブランディング化

施策7 送客機関への働きかけ

事業17 送客機関・メディア等への情報提供

施策8 エンドユーザーに向けた情報発信強化

事業18 ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用促進

施策9 魅力あるイベントによる誘客促進

事業19 祭事イベントの魅力向上

事業20 伝統産業をテーマとした新規イベントの実施

事業21 「大聖寺・橋立」での新たな賑わいイベントの実施

事業22 加賀温泉駅の賑わい創出

事業23 次世代の若者による企画イベントの実施

施策10 MICE誘致による誘客促進

事業24 MICE開催に対する宿泊助成制度の充実

戦略3 海外集客(インバウンド観光)の推進

国内需要が伸び悩む中、確実に拡大が見込まれる海外需要(インバウンド市場)に対して、誘客促進を図ります。

そのため、外国人にとって魅力ある観光資源の掘り起しを進めながら、地域のブランディング化を図り、外国人観光客にも満足してもらえるよう受け入れ態勢の整備を進めるとともに、海外の人たちにも広く伝わる情報発信施策を展開します。

施策1-1 海外自治体との交流による誘客促進

事業2-5 海外都市との友好・交流関係の構築

施策1-2 海外に向けたブランディング化

事業2-6 温泉宿泊集積地としてのブランディング化

施策1-3 外国人観光客に向けた情報発信と受け入れ態勢の強化

事業2-7 海外誘客につながる情報発信の強化

事業2-8 外国人受け入れ環境整備の推進

戦略4 実態把握と改善

観光市場を取り巻く環境は日々変化しています。その変化を的確に捉えるため、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく調査や独自の観光客位置情報調査を実施します。あわせて、観光事業者から1か月ごとに情報提供を受け、観光客の入込状況や発地別状況などを把握分析することで、的確な対策(プロモーション活動、各種イベントの開催、PRキャラバンの実施 etc)を迅速に講じる体制を構築します。

施策1-4 動向調査による観光実態の把握

事業2-9 旅行者の実態に関する調査・分析

事業3-0 日帰り観光客の動態調査による実数把握

施策1-5 現状分析による課題改善

事業3-1 観光誘客課題への対策体制の構築

第3節 戦略推進に向けた関係者の役割

1. 市民の役割

現在、消滅可能性都市である現状を意識し、地域づくりの主役として魅力的な地域をつくることを心がけ、一人一人が自分のお客様として来訪者をお迎えすることが求められます。また、街をよく知り、誇りを持ち、積極的な魅力発信に努めます。

2. 観光事業者の役割

来訪者を迎え入れ、満足していただく為に、加賀市の魅力を最大限提供し、長期的な地域視点での取組みも行います。なお、観光事業者とは、観光施設の管理者・宿泊事業者や飲食店・おみやげ店、交通事業者など観光に関わりのある事業者を表します。

3. 観光関連団体の役割

加賀市観光交流機構・各観光協会をはじめとする観光関連団体は、観光事業者を取りまとめ、行政との施策の調整を行いながら、加賀市の魅力を来訪者にわかりやすく伝え、加賀市に来訪するきっかけをつくる役割を担います。

4. 行政の役割

俯瞰した、客観的な視点で観光戦略の方向性を示し、主導します。また、観光事業者などが実施する誘客促進の支援や、来訪者を迎えるための公共インフラの整備などを行います。さらに、市民に対し、来訪者が地域経済を支えている重要性を理解してもらうこともその役割に含まれます。

第4章 展開する事業の詳細

第1節 戦略1 受け入れ態勢の整備

施策1 宿泊施設の魅力向上と効果的な戦略展開

事業1

事業名	サービス向上に向けた宿泊施設への助成制度			
現 状	宿泊施設における接客・サービスの向上は、個々の施設が独自で取り組んでいます。各施設では、サービスの質を高める必要性は十分理解しながらも、徹底した取り組みを十分に行うまでには至ってはいません。			
事業内容 と目的	<p>宿泊施設が加賀市観光の基盤であることから、施設における接客やサービスの質を高める必要があります。</p> <p>そのため、接客やサービスを向上するための取り組み（セミナー・研修会・視察 etc）を行う事業所に対しての助成制度を設けます。</p> <p>宿泊施設がそれぞれの質を高めることで、地域全体の魅力を増し、来訪者の満足度を高めることで、宿泊旅行者の誘客を図ります。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 旅館協同組合 加賀市内宿泊施設事業者			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>Timeline description: The diagram shows a horizontal timeline from Heisei 26 to Heisei 29. In Heisei 26, '助成制度策定' (Policy Formulation) is indicated by a right-pointing arrow. In Heisei 27, '助成制度施行' (Implementation) is indicated by a right-pointing arrow. In Heisei 28, '● 検証・改善' (Verification and Improvement) is marked with a black dot. In Heisei 29, '継続施行' (Continuation) is indicated by a right-pointing arrow.</p>			

事業2

事業名	宿泊施設における誘客強化組織の設立			
現 状	<p>宿泊施設における誘客対策は、温泉地ごとを単位としており、ターゲットの異なる宿泊施設が、統一された戦略に無理にまとまり戦略を進めています。</p> <p>そのため、事業者同士の協力意識が希薄になりがちで、事業展開も十分効果的であるとは言えない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>温泉地間の枠を超え、さらに温泉地以外の宿泊施設も含めた加賀温泉郷全体で、ターゲットが同一の宿泊施設ごとの組織（委員会）を設置し、それぞれにとって有効となる戦略を策定し実践します。</p> <p>（例）MICE 誘致委員会、合宿誘致委員会、インバウンド対策委員会 etc</p> <p>このことにより、組織のメンバー同士のまとまりが醸成され、目的に応じた効果的な戦略を展開することで、入込客数の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 旅館協同組合 加賀市内宿泊施設 事業者</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 設立準備（宿泊施設との協議）</p> <p>● 組織の設置</p> <p>→ 現状分析と戦略策定</p> <p>→ 計画の実践→検証→改善→実践 （繰り返し 継続）</p>			

施策2 温泉地の魅力向上

事業3

事業名	温泉街の賑わい創出			
現 状	<p>加賀市内の3温泉地においては、温泉街の賑わい創出のため様々な事業を行っておりますが、ここ近年はマンネリ感が否めません。観光客は、目新しいものや特別感があるものを望む中、北陸新幹線金沢開業を間近に控え、温泉街での賑わいを創出するための新たな仕掛けづくりが必要となってきています。</p>			
事業内容 と目的	<p>3温泉地の温泉街の魅力を高め、賑わいを創出するため、既存事業をさらに充実させながら、それぞれの個性を活かした新たな温泉街の魅力づくりを進めます。</p> <p>山代温泉 … 総湯・古総湯を核とした“湯の曲輪”を中心に、街歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり</p> <p>山中温泉 … “鶴仙溪”“ゆげ街道”の散策や“山中節”をはじめとする伝統文化が楽しめる温泉街の魅力づくり</p> <p>片山津温泉… 柴山瀉の“湖畔・湖上”と温泉街を繋ぎ、一体的に街歩きが楽しめる温泉街の魅力づくり</p> <p>3温泉地の事業に対する行政の支援をさらに強化し、更なる温泉地の魅力づくりを推進します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市内3温泉 観光協会</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 事業計画の企画立案</p> <p>→ 北陸新幹線金沢開業対策事業の展開 温泉地の事業に対する支援強化</p> <p>→ 事業の検証・改善</p> <p>→ 事業拡充・新規事業の展開 → 検証→改善→実践 (繰り返す 継続)</p>			

事業4

事業名	「総湯」の魅力向上と観光利用の促進			
現 状	<p>宿泊観光客は、主に宿泊施設で滞在し帰ってしまう傾向があり、市内はおろか温泉地内の回遊すら十分に行っていません。</p> <p>各温泉地には、温泉地のシンボルともいえる「総湯」があるものの、その魅力が観光客へ十分に伝わっておらず、観光資源として活用されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>温泉地来訪者にとって源泉主義的要望を満たすことが重要であり、源泉情報の提供を十分に行うことが全国的に主流である中、市内温泉地においても源泉の明確な“特徴”を示す必要があります。</p> <p>そのため、温泉地のシンボルともいえる「総湯」の「泉質・効能」や「入浴方法」等、伝えるべきコンセプトを明確化し、温泉の本来の楽しみ方をわかりやすく来訪者に伝えます。</p> <p>「総湯」利用が、その温泉地の本質を感じることでできる手段であるという認識を観光客に意識させ、「総湯」を核とした温泉地の回遊を促進することで、来訪者の滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会 「総湯」施設 指定管理者</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 現状分析・指定管理者協議</p> <p>● 各総湯のコンセプト決定</p> <p>————→</p> <p>コンセプトに基づく取り組み →検証→改善→実践 (繰り返し 継続)</p>			

事業5

事業名	「総湯」による温泉地間の回遊性向上			
現 状	<p>「総湯」は、観光客に十分利用されておらず、全国の人気温泉地にあるような「外湯めぐり」や「温泉地めぐり」という企画もされておらず、3温泉が集約された地域ながら、その魅力が十分に発揮されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>来訪者が、最低でも1カ所、多い人は3温泉の「総湯」を巡るようになるための“きっかけ”をつくります。</p> <p>1. 「総湯めぐり」商品の企画・販売 2. 利用者への特典付加を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宿泊者利用の無料化…減免、宿泊施設負担 etc ・ 小学生以下の入湯料…大人(同伴)の増加、指定管理者理解 <p>「総湯めぐり」による温泉地間の回遊性を高めることで「加賀市への来訪者の増加」、来訪者の滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会・旅館協同組合 「総湯」施設 指定管理者 加賀市内宿泊施設 事業者</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p style="text-align: center;">→</p> <p style="text-align: center;">利用制度の検討（指定管理者との協議） 「総湯めぐり」商品の検討</p> <p style="text-align: center;">—————→</p> <p style="text-align: center;">「総湯めぐり」商品の販売</p> <p style="text-align: center;">—————→</p> <p style="text-align: center;">新しい「総湯」利用制度の試行 →検証→改善→実践 (繰り返し 継続)</p>			

施策3 新たな食メニューによる地域の魅力向上

事業6

事業名	「新ご当地グルメ」の開発			
現 状	<p>数年前より、ご当地グルメの開発を幾度となく試みてきましたが、メニューは定着しておらず、観光客にとって「加賀温泉郷の食」のイメージが構築されていません。</p> <p>現存する食事メニューは、誘客のきっかけ、滞在時間の延長に貢献できるものにまで至っていない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>朝食と夕食は、宿泊施設での食事になるため、【2回の昼食】または、【1回の昼食と休憩（カフェタイム）】を、加賀市内で食べてもらえるよう、魅力的な2つの“新ご当地グルメ”開発を行います。</p> <p>開発にあたり、民間から専門のグルメ開発プロデューサーを招き、全国各地で成功している手法を導入し、協力飲食店や宿泊施設を募り、共同で開発を進めます。</p> <p>観光客にとって魅力ある新しい「食のメニュー」により、加賀市への来訪者の増加、来訪者の滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀商工会議所 山中商工会 取扱飲食店 事業者</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ ランチ開発 ● ランチ完成→販売開始</p> <p>→ スイーツ開発 ● スイーツ完成→販売開始</p> <p>→ 販売促進・飲食店組織の管理運営 積極的な情報発信 グルメツアーの実施（観光商品化）</p>			

施策 4 魅力ある街並み景観を活用した誘客促進

事業 7

事業名	街並み景観保護に向けた取り組み支援			
現 状	<p>加賀市内においては、大型ショッピングセンターなどの再開発が進み、街の景観が、日本の多くの街で広がる画一化した景観になりつつあり、温泉地では、空き店舗対策等による商店街の再生が進められていますが、部分的なものであり、画一的に行われておらず、廃業旅館の廃屋も目立ちます。</p> <p>加賀市では、景観整備地区を設定し、建造物の改修に対する助成制度を設けていますが、範囲が狭く全市的な広がり期待できる状況とはいえません。</p>			
事業内容 と目的	<p>有効な観光資源となりうる特定エリアを対象に、景観整備地区の範囲を広げます。</p> <p>さらに、各地域の特色を活かすため、地域ごとに詳細な景観形成ルールを定めるとともに、外観改修を行う事業者に対する助成内容の充実化を図ります。</p> <p>加賀温泉郷らしい温泉情緒や歴史文化を感じる建築物や風景の存続と再生により、街全体の雰囲気向上させ、外国人から見て「クールジャパン」と感じてもらえるような街並み形成を目指します。</p> <p>ガーデンシティー構想に基づく街並みの緑化とあわせ、街並み自体を誘客要素とし、来訪動機に繋げます。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市役所 地域振興部 商工振興課 加賀市役所 建設部 建築課 加賀市内観光事業者</p>			
実施年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計 画	<p>景観保護助成制度の検討</p> <p>景観保護助成制度の試行 → 検証 → 改善 → 実践 (繰り返し 継続)</p> <p>ガーデンシティー構想策定</p> <p>ガーデンシティー構想の実践</p>			

事業 8

事業名	伝統的街並み(大聖寺・橋立・東谷)の観光活用			
現 状	<p>加賀市内には、大聖寺藩の歴史文化を色濃く残す「大聖寺地区」のほか、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「橋立地区」「東谷地区」があります。</p> <p>各地区ともに、文化資源としての認識は持たれていますが、観光資源としては十分に活用されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>「大聖寺」「橋立」「東谷」の3地区とも有力な観光資源として捉え、見どころ紹介マップの作成や地元ガイドによる案内体制等、受け入れ態勢の整備を進めながら、積極的な情報発信を展開します。</p> <p>大聖寺では、山の下寺院群めぐりや町屋めぐりなど、歴史や文化を楽しめる散策コースづくりを進めます。</p> <p>橋立地区では、街並み散策のほか、北前船に関するイベントを開催する等、その歴史や文化を広く伝えながら誘客促進を図ります。</p> <p>東谷地区では、駐車場や公衆トイレ等の基盤整備についての検討を進め、山村集落ならではの自然体験、文化体験、食の提供、長期滞在など、新たなメニューやプログラムの実践を目指します。</p> <p>観光客にとって新鮮で魅力的な観光メニューを提供することで、来訪者の増加、来訪者の滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市役所 教育委員会 文化財保護課 加賀市観光交流機構 橋立地区・東谷地区 地元住民</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>観光活用方法の検討 受入態勢整備計画の策定</p> <p>受入態勢の整備</p> <p>観光活用の実践 (旅行商品化)</p>			

施策5 加賀温泉郷域内の回遊性向上と流入促進

事業9

事業名	「1泊2日3湯4食」定着化による域内回遊性の向上			
現 状	現在、加賀市への来訪者は、宿泊施設での滞在のみで帰路に着いている人が多く、加賀市内での滞在時間は短く、観光消費額が少ない状況です。			
事業内容 と目的	<p>1泊2日で加賀市に滞在する場合には、3つの温泉地と4回の食事（昼・朝・夕・昼）を加賀市内で楽しんでもらうことを推奨する「1泊2日3湯4食」プランを造成（商品化）し、旅行会社やインターネット予約サイト、宿泊施設で販売します。</p> <p>あわせて、ストーリー性のある回遊コースを策定し、宿泊温泉地での街歩きに加え、宿泊温泉地以外の温泉地へも移動し、総湯を中心とした街歩きの中で買い物や飲食を行うきっかけになるプランの造成販売を進めます。</p> <p>観光客にとって魅力ある滞在時間の提供により、加賀市への来訪者の増加、来訪者の滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 「1泊2日3湯4食」プランの検討</p> <p>● 「新ご当地グルメ」完成</p> <p>「1泊2日3湯4食」をコンセプトとした新しい旅行商品の企画販売 → 検証 → 改善 → 実践 （繰り返し 継続）</p>			

事業10

<p>事業名</p>	<p>地域バスの魅力創出による域内回遊性の向上</p>			
<p>現 状</p>	<p>キャンバス、山中温泉お散歩号、永平寺おでかけ号は、地域の周遊観光における主要公共交通機関でありながら、利用者は、減少傾向にあります。 要因として、認知度の不足に加え、ルート、運行本数などが観光客にとって十分満足できる最適な内容になっていないのではないかと考えられます。</p>			
<p>事業内容 と目的</p>	<p>地域バスの利便性向上による利用促進を図る為、実態把握を行い、運行ルートや運行本数、乗車料金、サービス内容、販売体制などの改善について、運営事業者と検討を進めます。 それぞれのバスの魅力を向上させ、来訪者ならびに市民の満足度を高めながら、加賀温泉郷域内の回遊性と利便性の向上を図ります。</p>			
<p>関係機関</p>	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市役所 総務部 企画課・交通対策室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会 地域バス運行事業者</p>			
<p>実施年度</p>	<p>平成26年度</p>	<p>平成27年度</p>	<p>平成28年度</p>	<p>平成29年度</p>
<p>計 画</p>	<p>地域バスの利用促進について運営事業者と検討 (ルート・本数・料金・サービス内容・販売体制 etc)</p> <p>永平寺お出かけ号の充実 (路線延伸)</p> <p>地域バスを利用した 新たな旅行商品の企画・販売</p> <p>新たな運行体制の施行</p>			

事業 1 1

事業名	タクシー利用促進による域内回遊性の向上			
現 状	<p>タクシードライバーのサービスは、利用する観光客の満足度に大きな影響を及ぼしますが、その認識はドライバー全体に浸透していません。</p> <p>また、周遊観光の交通手段としては、乗車料金に割高感があり、観光客の利用は決して多くありません。</p>			
事業内容 と目的	<p>加賀市内で営業するタクシードライバーに向けた研修会を実施し、自身が加賀温泉郷のおもてなしの顔となる存在であることを再認識してもらう機会を提供します。</p> <p>また、ドライバーの実態把握調査、マナー向上セミナー、優良ドライバー認定制度等の実施により、モチベーションを高め、サービスレベルの向上を図りながら、話題性やイメージの向上による売り上げ増加を目指します。</p> <p>あわせて、魅力ある新たな観光タクシープランの企画造成も進めます。</p> <p>観光客のタクシー利用促進による市内回遊性を高めることで、滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内タクシー営業 事業者</p>			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<p>タクシードライバー向けの研修会の実施</p> <p>タクシー利用によるお得で便利な周遊観光プランの企画・販売</p>			

事業 1 2

事業名	レンタカー利用促進による域内回遊性の向上と流入促進			
現 状	<p>観光客の加賀温泉郷内における自家用車以外の移動手段は、宿泊施設の送迎バスとキャンバスが主です。</p> <p>また、近隣観光地へ直通する公的交通手段はほとんどありません。そのような中でも、レンタカーの利便性に注視した加賀温泉郷への旅行商品はありません。</p>			
事業内容 と目的	<p>レンタカーを利用する加賀市内への宿泊観光客に対しての助成制度を設け、便利でお得感のあるレンタカープランを企画造成し提供します。(宿泊＋J R・飛行機＋レンタカー)</p> <p>宿泊観光客の市内回遊性を高めることで、滞在時間の延長と観光消費額の増加を図ります。</p> <p>また、金沢や福井、少し足を延ばして白川郷や飛騨高山など、近隣の有力観光地も加賀温泉郷の観光資源として捉え、有効活用することで、加賀温泉郷来訪のきっかけをつくり、入込客数の増加を目指します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内 3 温泉 観光協会・旅館協同組合 レンタカー事業者 加賀市内宿泊施設 事業者</p>			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<p>→ 宿泊客へのレンタカー利用助成制度の検討</p> <p>→ 宿泊客へのレンタカー利用助成制度の施行 → 検証 → 改善 → 実践 (繰り返し 継続)</p> <p>→ レンタカー利用による 新たな周遊観光プランの企画・販売</p>			

事業 1 3

事業名	金沢からの高速特急バス定期運行による流入促進			
現 状	<p>金沢から加賀温泉郷への高速特急バス「加賀ゆのさと特急」は、石川県と加賀市の助成のもと、ラッピング車両「L a d y K a g a 号」を用い、平成26年度から実証運行していますが、利用者数が少なく、採算性の面から課題を抱えている状況にあり、継続的な交通手段として確立されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>石川県に対し、北陸新幹線金沢開業後の継続助成を働きかけます。乗車実態を把握するとともに、位置情報調査結果から来訪者の入込み時間を分析し、運行時間や運行本数の見直しを検討します。</p> <p>また、車内でのエンターテイメント的要素を盛り込むことの検討も進めます。</p> <p>金沢からの来訪者の利便性を高めることで、加賀温泉郷への入込客数の増加を目指します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市役所 総務部 企画課・交通対策室 石川県庁 新幹線・交通対策監室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会 「加賀ゆのさと特急」運行事業者</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>The diagram shows a timeline from Heisei 26 to Heisei 29. In Heisei 26, there is a phase for 「湯の郷特急」実証運行 (県・市 合同事業). In Heisei 27, there is a phase for 運行状況の検証・分析. In Heisei 28, there is a phase for 「湯の郷特急」本格運行. In Heisei 29, there is a phase for 運行状況の検証・分析. A long arrow at the bottom indicates 「湯の郷特急」継続運行 from Heisei 26 to Heisei 29.</p>			

事業 1 4

事業名	広域連携による魅力ある観光コースづくり			
現 状	<p>加賀地域、南加賀地域、越前加賀地域の単位で複数の連携組織が設置されていますが、取り組み計画が十分に精査されていない状態で事業が進められており、各事業の誘客効果についても明確になっていません。</p> <p>【加賀市が参画する広域連携組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 南加賀広域連携観光事業 (2) 越前加賀宗教文化街道事業 (3) 加賀越前広域観光推進協議会事業 (4) 加賀観光推進議員連盟・オール加賀会議 			
事業内容 と目的	<p>位置情報調査結果を基に、観光客の動向についての現状を分析し、連携強化の優先順位付けを行うことで、最適な連携事業を進め、共同モデルコース作成、共同プロモーション等を実施します。</p> <p>他自治体と協調しながら、各連携組織の中でも加賀市がリーダーシップを発揮し、周辺地域との相乗的な誘客促進を図ります。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 周辺の自治体			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div> <p>北陸新幹線金沢開業に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 二次交通整備の働きかけ ・ 観光モデルコースの策定 ・ 観光プロモーション活動 </div> </div> <hr style="border: 1px solid black; margin: 10px 0;"/> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> </div> <div> <p>北陸新幹線金沢開業後の取り組みの継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 観光モデルコースの検証・改善 ・ 観光プロモーション活動の強化 </div> </div>			

事業 1 5

事業名	地域の観光案内機能の強化			
現 状	<p>平成13年にJR加賀温泉駅前に加賀市観光情報センター「KAGA旅・まちネット」を創設し、観光情報の一元管理、情報発信、観光案内を行っておりますが、今後は、北陸新幹線金沢開業を見据え、更なる機能拡充を進め、観光客へのサービス提供を強化する必要があります。</p> <p>また、観光客が市内各所で観光情報を容易に取得できる体制が十分に確立されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>加賀温泉郷への来訪者が必要とする観光情報を的確に提供するため、加賀市観光情報センター「KAGA旅・まちネット」において、適正な人員配置、接客力の向上を図りながら、旬な情報が集まり案内できる体制構築を進めます。</p> <p>観光客が市内各所で観光情報を容易に取得できるよう、着地用のパンフレットやマップを充実させ、携帯電話を利用し旬な観光情報を配信できる環境を整備します。</p> <p>充実したサービス提供により、来訪者の満足度向上に繋げ、リピーターを増やすことで、入込客数の増加、滞在時間の延長、観光消費額の増加を目的とします。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 観光案内機能の検証と改善策の検討</p> <p>→ 新しい観光案内サービスの実践</p> <p>→ サービス内容の検証・改善</p> <p>→ 観光案内の継続</p>			

第2節 戦略2 情報発信・誘客の強化

施策6 加賀温泉郷コンセプトの統一化

事業16

事業名	「加賀ていねい」のブランディング化			
現 状	<p>加賀市においては、地域ごとのコンセプトはありますが、全体で統一された観光コンセプトがなく、加賀市のイメージが伝わりにくい状況です。</p> <p>特に首都圏における知名度・認知度への影響は顕著であり、誘客プロモーションを進める上での弊害となっており、旅行事業者からは、加賀市のイメージの分かり難さから、商品設定や送客への影響を指摘されています。</p> <p>また、市民も加賀市の魅力を一言で表現できない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>加賀市のコンセプト「加賀ていねい」に基づき、魅力を紹介するプロモーション映像を制作し、インターネット動画サイトをはじめ、KAGA旅まちネットホームページ、関連イベント、SNSサイトなどを活用し発信します。</p> <p>同時に、映像を市民に公開し、魅力の再認識をして頂きます。</p> <p>「加賀ていねい都市宣言」「加賀ていねい認定制度」を施行し、ブランディング化を図ります。</p> <p>コンセプトが加賀市民に浸透することで、この考え方を踏襲したサービス・商品が生まれ、加賀市を「ていねいな街」として市外に認知させ、入込客数の増加に繋がります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市民</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ PRツールの作成・配布</p> <p>● 「加賀ていねい」都市宣言</p> <p>→ 啓発活動→市民や観光事業者への意識浸透</p> <p>→ 「加賀ていねい」認定制度検討</p> <p>→ 「加賀ていねい」認定制度施行</p> <p>→ 「加賀ていねい」によるイメージ戦略の展開</p>			

施策 7 送客機関への働きかけ

事業 17

事業名	送客機関・メディア等への情報提供			
現 状	<p>旅行者やメディア関係への情報提供や情報交換は、加賀市全体としては、石川県のキャンペーン等の事業の中で、年間2回から3回程度しか行われておらず、魅力を伝えられていない状況です。</p> <p>また、観光消費者の動向も掴めていないため、取り組みに対する振り返り、課題の検証ができていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>旅行会社や宿泊予約サイト、JRや航空会社などの交通機関、メディア等に対して、加賀温泉郷の魅力や新着情報等を定期的に提供する場を、加賀市独自に設定し、市長のトップセールスも行いながら、3温泉協働のもと実施します。</p> <p>同時に、観光マーケットの状況や消費者動向について情報交換を行います。</p> <p>更には、石川県事業に対しても積極的に参画し、県内における存在感を高め、石川県といえば加賀温泉郷というイメージを全国に定着させます。</p> <p>情報発信の量・質ともに高めることで入込客数増加に繋げ、情報交換により加賀市の課題を確認しながら適切な対策を講じることで、誘客活動の最適化を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 観光協会</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p> </p> <p> </p>			

施策 8 エンドユーザーに向けた情報発信強化

事業 18

事業名	ソーシャルネットワークサービス(SNS)の活用促進			
現 状	<p>SNSは、観光情報を発信する上で、非常に有効な告知手法となっています。</p> <p>加賀市観光情報センター「KAGA旅・まちネット」において取り組んではいますが、本格的な活用には至っていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>SNSを有効活用した情報発信を展開するため、担当者を配置し、特に Facebook と Twitter を通じて、リアルティのある情報をタイムリーに発信します。</p> <p>情報は、デイリーで更新し発信します。</p> <p>国内外に向けて効率的に誘客活動を展開することで、観光入込客数の増加を目指します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構</p>			
実施年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計 画	<p>→ SNS活用方法の検討</p> <p>SNS活用による情報発信・誘客活動</p> <p>→ 効果検証</p> <p>SNSの有効活用(継続)</p>			

施策 9 魅力あるイベントによる誘客促進

事業 19

事業名	祭事イベントの魅力向上			
現 状	<p>「菖蒲湯まつり」「こいこい祭り」「ぐず焼き祭り」「十万石まつり」等は、魅力的な祭事でありながら、地域のイベントにとどまり、観光活用が十分にされていません。</p> <p>また、「山代大田楽」や「片山津温泉湯のまつり」等は観光イベントとして認識されつつありますが、市外に向けての情報発信量も少なく、有力な誘客コンテンツになっていない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>市民にも馴染みがあり、観光客にとっても魅力的な祭事を全国に発信し、加賀市の代表的な誘客イベントとして確立させます。</p> <p>情報発信の強化はもちろんのこと、来訪のきっかけづくりとして、観光客が地域の人たちと参加できる仕組みづくり、祭り参加ツアーの造成販売等の取り組みを行います。</p> <p>宗教的要素も含め地元主体での祭事であることを尊重し、その持続性を保持しつつも、実施日程を全て土曜・日曜に設定できないか、地元主催者との検討を進めます。</p> <p>地元住民、地元出身者、市民、観光客が、より参加しやすくなることで、加賀市の魅力を再認識しながら、賑いのある地域の誇りとなる行事として、観光入込客数の増加はもとより、ひいては加賀市の定住者増加に繋げることを目指します。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 各祭事 主催者			
実施年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計 画	<p>→ 祭事イベント主催者との協議・検討</p> <p>→ 検討策を講じたイベント展開</p> <p>→ イベントの見学・体験ツアー等の実施</p> <p>→ イベント内容の検証・改善</p> <p>→ イベントの観光活用（継続）</p>			

事業20

事業名	伝統産業をテーマとした新規イベントの実施			
現 状	<p>加賀市は、九谷焼と山中漆器という日本を代表する2大伝統産業を有しています。</p> <p>山中漆器は、「山中漆器まつり」が実施されていますが、九谷焼に関しては、発祥の地でありながら、これをテーマにした大規模なイベント開催はされていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>全国の焼物が盛んな地域（有田・唐津・信楽・瀬戸・越前・京都・笠間・益子 等）と連携し、集客力のある“焼物”イベントの開催と、併せて、焼物産地が相互に誘客コンテンツとしての“焼物”の活用方法の知見を共有する会議の開催について検討します。</p> <p>このイベントの主催都市になることにより、焼物の中核都市であることを全国に発信し、更なる九谷焼のブランド化を図ります。</p> <p>イベント開催を機に、イベント期間以外での事業展開も充実させ、観光入込客数の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市役所 地域振興部 商工振興課 石川県九谷焼美術館 加賀九谷陶磁器協同組合 全国の焼物産地 自治体</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 方針等の決定</p> <p>→ 事業計画の策定 → 協力要請</p> <p>→ イベント情報の発信</p> <p>イベント実施 ●</p> <p>継続実施 →</p>			

事業 2 1

事業名	「大聖寺・橋立」での新たな賑わいイベントの実施			
現 状	<p>加賀市の中心地域である大聖寺地区は、大聖寺十万石の歴史や文化を有しながらも観光資源として有効活用されておらず、賑わい創出の為の定期的なイベント等も実施されていません。</p> <p>また、橋立地区も北前船主邸が建ち並ぶ伝統的建造物群保存地区や橋立漁港等の観光資源がありながら定期的な誘客イベントは実施されていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>大聖寺や橋立の両地区における賑わいを取り戻すため、定期的なイベントの開催を検討します。</p> <p>【案】大聖寺 … 「蘇梁館」を利用したフリーマーケット “日曜日” の定期実施</p> <p>橋立 … 橋立漁港での “日曜朝市と漁師めしの振る舞い” の定期実施</p> <p>フリーマーケットは、市民に愛されるものとして話題性を高めながら、順次、遠方の方への誘客要因になるよう取り組みを進め、県内や近隣県からの入込客数増加に寄与するイベントを目指します。</p> <p>橋立漁港では、港町の雰囲気の中、観光客が買物や飲食を楽しむイベントとして、都市圏からの入込客数増加に寄与するイベントを目指します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀商工会議所 地元まちづくり関係者 橋立漁港 漁業関係者</p>			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<p>→ 地域との協議→事業計画の策定</p> <p>→ 新規事業の実証実施</p> <p>→ 事業内容の検証・改善</p> <p>継続実施 →</p>			

事業 2 2

事業名	加賀温泉駅の賑わい創出			
現 状	<p>加賀温泉駅に降り立つ観光客の多くは、「温泉情緒が感じられない」「寂しい」という印象を感じています。</p> <p>加賀温泉郷の玄関口でありながら、施設や景観からは温泉情緒を感じられるものが無く、観光客を迎え入れる“おもてなし”や“賑いづくり”の仕掛けができておらず、来訪者の満足度は高くない状況です。</p> <p>駅名も来訪者の誤認を招くネーミングです。</p>			
事業内容 と目的	<p>加賀温泉駅前広場のコンコースを有効活用し、「加賀温泉郷屋台」や「加賀温泉郷朝市」などを設け、賑い創出による来訪者へのおもてなし向上を図ります。</p> <p>駅前のインフラ整備による施設の充実、温泉情緒を感じる景観形成、観光案内機能の更なる強化についても検討を進めます。</p> <p>駅名を、来訪者が想起しやすい「加賀温泉郷駅」とできないか、J R と検討を進めます。</p> <p>来訪者の利便性と満足度の向上を実現させ、リピーターの増加に繋げることで、入込客数の増加を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 J R 西日本 金沢支社（加賀温泉駅）</p>			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<p>→ 事業計画策定 駅前広場会場設営準備 参画事業者との調整</p> <p>→ 北陸新幹線開業イベントの実施</p> <p>→ 賑わい・もてなし事業の展開</p> <p>→ 駅名変更の検討・働きかけ</p>			

事業 2 3

事業名	次世代の若者による企画イベントの実施			
現 状	<p>来訪者の年齢層は、シニア層の割合が高く、若者の誘客に課題があります。</p> <p>また、加賀市では若者離れが進み、人口の減少に歯止めがかからない状況です。</p> <p>若者が活躍できる場、楽しめる場の提供も、行政として積極的に行えていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>「若者の温泉文化を創り、発信する」イベントの企画開発を進めます。</p> <p>民間のイベントプロデューサーを招き、参画を希望する若者を、市内・県内に加え、都市圏からも募り、新しい発想による若者向けのイベントを開催します。</p> <p>温泉文化の発信地として存在感を醸成し、若者の関心を高めることで、全国から若者が押し寄せるイベントを展開し、地域のブランド力を高めながら、観光入込客数の増加、若者定住者の増加を目指します。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構			
実施年度	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
計 画	<p>若者による組織の結成 事業方針の決定</p> <p>事業計画の企画・立案</p> <p>イベントの実施</p> <p>次年度事業計画の企画・立案</p> <p>イベントの実施</p>			

施策 10 MICE誘致による誘客促進

事業 24

事業名	MICE開催に対する宿泊助成制度の充実			
現 状	<p>会議、研修、セミナー、大会、学会、国際会議、展示会、企業の報奨・招待等に伴う団体旅行は、一度に多くの来訪客が見込めます。</p> <p>加賀市では、これらに教育旅行（修学旅行・合宿）を加えた団体旅行（加賀市内において述べ50人泊以上）に対して助成制度を設け、誘客促進を図っています。</p> <p>【参考】 MICEとは？ Meeting（会議・研修・セミナー） Incentive tour（報奨・招待旅行） Convention または Conference（大会・学会・国際会議） Exhibition（展示会）</p>			
事業内容 と目的	<p>MICE誘致は、地域に大きな経済効果をもたらすことから、全国各地で誘致競争が激化しています。</p> <p>平成27年は、北陸新幹線金沢開業の効果により、金沢で多くのMICEが開催されることから、その来訪客を加賀温泉郷へ取り込むため、これまでの主催者への助成制度に加え、新たに送客する旅行業者への助成制度を導入し、団体宿泊客の誘客強化を図ります。</p> <p>MICEの多くは、旅行業者が宿泊施設の手配を行うことから、効果的に誘客促進が図れます。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>コンベンション等開催助成制度の施行（主催者への助成）</p> <p>→ 送客機関への助成制度の検討</p> <p>→ 助成制度の周知強化</p> <p>送客機関への助成制度施行</p> <p>効果測定</p> <p>助成制度の継続運用</p>			

第3節 戦略3 海外集客(インバウンド観光)の推進

施策 1 1 海外自治体との交流による誘客促進

事業 2 5

事業名	海外都市との友好・交流関係の構築			
現 状	<p>加賀市は平成26年7月に、台湾の台南市(友好都市)、高雄市(観光交流)、高雄市鼓山区(友好交流)との各協定を締結しました。</p> <p>民間ではカナダ国ハミルトン市(旧ダングラス町)との交流を行っている。</p>			
事業内容 と目的	<p>市長のトップセールスにより、海外都市との友好・交流に関する協定を締結し、それを基盤とした人的・文化的交流を拡充し、観光入込客数の増加を図ります。</p> <p>特に、台湾・シンガポール・タイは、今後の加賀温泉郷にとって非常に大きな市場になりうることから、優先的に誘客活動の展開を進め、アジア周辺各国からの観光入込客数を劇的に増加させ、観光消費額の増加を図ります。</p> <p>また、カナダのハミルトン市と積極的に交流事業を行います。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課 加賀市観光交流機構 加賀市都市交流協議会</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	<p>● 台湾都市との都市交流協定締結</p> <p>→ 台湾との交流事業、プロモーション計画の企画立案</p> <p>→ 台湾との交流事業、プロモーションの展開</p> <p>→ シンガポール・タイの都市との友好・交流関係の構築 ⇒ 交流事業、プロモーション活動の展開</p> <p>→ ハミルトン市と交流事業の積極的展開</p>			

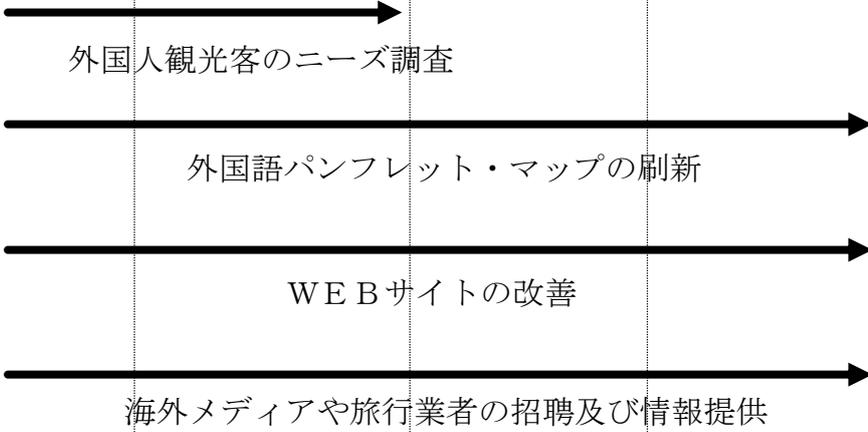
施策 1 2 海外に向けたブランディング化

事業 2 6

事業名	温泉宿泊集積地としてのブランディング化			
現 状	<p>インバウンド観光の誘客において、日本旅館は大きな訴求力があります。</p> <p>現在、宿泊施設が単独で、情報発信や営業活動等を行っているものの、加賀温泉郷全体としてのブランディング化を図るような、まとまり感のある働きかけは行われていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>インバウンド対策を行う宿泊施設と市が連携して、温泉宿泊集積地としてのイメージを調査、検討し、加賀温泉郷のブランディング化を進めながら、まとまり感のある情報発信を行うことで、知名度、プライオリティ（優先性）の向上を図ります。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 旅館協同組合</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	<p>ブランディングイメージの調査、検討</p> <p>ブランディングの情報発信</p>			

施策 13 外国人観光客に向けた情報発信と受け入れ態勢の強化

事業 27

事業名	海外誘客につながる情報発信の強化			
現 状	<p>国によって観光ニーズが異なりますが、そのことを踏まえた外国語パンフレット、WEBサイトの整備がなされておらず、国外に向けた戦略的な情報発信の意識も低く、訪日外国人観光客を対象とした着地情報発信による誘客活動も殆ど行われていません。</p> <p>また、出版社やTVなどのメディア、旅行業者への情報提供は、石川県が主体で行っており、加賀市としては積極的な取り組みを行っていません。</p>			
事業内容 と目的	<p>国別の観光ニーズ調査を実施し、加賀温泉郷のどのような観光素材がそれぞれの国の人たちに響くのかを把握した上で、より分かりやすく、魅力ある見せ方で、観光パンフレットやWEBサイト等の情報発信ツールを整備します。</p> <p>海外メディアや旅行業者に向けて、加賀市の魅力をまとめ情報提供するために、県や広域等との連携を強化し、誘客効果が高いと思われる海外メディアや旅行業者を招聘するなど積極的な情報提供を行います。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課 加賀市観光交流機構			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	 <p>The diagram shows four horizontal arrows representing implementation periods:</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人観光客のニーズ調査: Starts in Heisei 26 and ends in Heisei 27. 外国語パンフレット・マップの刷新: Starts in Heisei 26 and continues through Heisei 29. WEBサイトの改善: Starts in Heisei 26 and continues through Heisei 29. 海外メディアや旅行業者の招聘及び情報提供: Starts in Heisei 26 and continues through Heisei 29. 			

事業 28

<p>事業名</p>	<p>外国人受け入れ環境整備の推進</p>			
<p>現 状</p>	<p>加賀市全体ならびに関係箇所において、外国人観光客が安心して訪れることのできる受け入れ環境整備がなされておられません。 例えば、外国語の看板、パンフレットなどの観光情報やWi-Fi環境が十分とは言えない状況です。 また、海外からの観光客のニーズに対応した観光商品も造成されていません。</p>			
<p>事業内容 と目的</p>	<p>外国人観光客の受け入れ環境の整備計画を策定のうえ、受け入れ環境の整備を実施します。 誘導案内看板、現地パンフレット、マップの多言語化、及びWi-Fi環境の整備やWEBサイト活用など外国人観光客の利便向上を図ります。 また、既存の観光資源に対する外国人の認知度、興味度、満足度について調査を行い、国別のニーズを把握した上で、見学・体験・交流などのプランを盛り込んだ観光商品の企画開発の検討を行います。</p>			
<p>関係機関</p>	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉地 旅館組合 加賀市内の各観光事業者</p>			
<p>実施年度</p>	<p>平成26年度</p>	<p>平成27年度</p>	<p>平成28年度</p>	<p>平成29年度</p>
	<p>外国人観光客の受け入れ環境整備計画の策定</p> <p>外国人観光客の受け入れ環境整備 (看板、パンフレット、マップ、Wi-Fi、WEBサイト等)</p> <p>外国人観光客のニーズ調査を踏まえた観光商品化</p>			

第4節 戦略4 実態把握と改善

施策14 動向調査による観光実態の把握

事業29

事業名	旅行者の実態に関する調査・分析			
現 状	現在は、月別入込客数や初地別年間入込客数程度を把握しているものの、実態の詳細や動向内容までは把握されておらず、感覚値（推測）で観光戦略の立案がされている状況です。			
事業内容 と目的	<p>必要な各種調査と関係各位ヒアリングを定期的実施し、その結果をベースにした的確な戦略を企画立案し実践に移します。</p> <p>実績に対する検証も確実に実施し戦略を推進します。</p> <p>一連の作業を、スピード感を意識し継続実施して行く中で、定性定量化された目標達成を図ります。</p> <p>実態をしっかり把握した上で、的確な観光戦略を進めることで、速やかに目標を達成することを目指します。</p>			
関係機関	加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 加賀市内3温泉 旅館協同組合			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計 画	<p>→ 調査方法・調査体制の検討</p> <p>定期的な実態調査（月1回・年1回）</p> <p>↓</p> <p>実態把握・分析</p> <p>↓</p> <p>観光戦略に反映（随時）</p>			

事業 30

事業名	日帰り観光客の動態調査による実数把握			
現 状	<p>日帰り観光客数は、宿泊施設を利用し入湯税を支払った日帰り客数のみを計測しています。</p> <p>市外から来訪し、日帰り、「観光スポットを訪れた人」「総湯入浴した人」「飲食店で食事した人」等は、観光客として見なしていないことから、実際の日帰り観光客数の把握はできておらず、実施する事業の効果測定も十分にできていない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>これまで実施してきた宿泊施設での宿泊・日帰り客数の集計とあわせて、観光庁の「観光入込客統計に関する共通基準」に基づく調査や独自の観光客位置情報調査を実施し、日帰り観光客の状況を正しく把握します。</p> <p>このことにより、実質的な観光客数値を基とした戦略の検証や改善を行うことが可能となり、観光入込客数増加と観光消費額増加のための効果的な対策を迅速に進めることができます。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室 加賀市観光交流機構 観光事業者</p>			
実施年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
計 画	<p>→ 調査方法・調査体制の検討</p> <p>定期的な実態調査 (月 1 回・年 4 回)</p> <p>↓</p> <p>動向把握・分析</p> <p>↓</p> <p>観光戦略に反映 (随時)</p>			

施策 15 現状分析による課題改善

事業 31

事業名	観光誘客課題への対策体制の構築			
現 状	<p>各温泉地の入込客数は、毎月の報告を受けていますが、これを受けての観光誘客課題等の分析を随時行うことはされていません。</p> <p>また、確認した状況の分析結果や課題への対策を、宿泊施設や観光施設へフィードバックするバックアップ体制も十分確立されていない状況です。</p>			
事業内容 と目的	<p>1ヶ月毎に、「宿泊入込客数の状況」や「発地別状況」等、共通ヒアリング項目を設定し、その情報を宿泊施設から収集し把握します。</p> <p>その状況を踏まえ、プロモーションやイベント、キャラバン等の実施を行える体制構築を推進します。</p> <p>この体制により、課題と原因を素早く把握し対策を講じることで、観光入込客数の増加を目指します。</p>			
関係機関	<p>加賀市役所 地域振興部 観光交流課・首都圏戦略室</p> <p>加賀市観光交流機構</p> <p>加賀市内3温泉 観光協会・旅館協同組合</p>			
実施年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成26年度
	<p>→ 関係機関への協力要請 →課題に向けた対策体制の組織化</p> <p>定期的なヒアリング調査 (月1回)</p> <p>↓</p> <p>課題の把握・分析</p> <p>↓</p> <p>宿泊施設や観光施設へフィードバック</p> <p>↓</p> <p>観光戦略に反映 (随時)</p>			

第5章 総括

全国有数の3温泉地をはじめ、多くの観光資源に恵まれている加賀市は、従来より多くの来訪者が訪れる観光地、温泉地として栄えてきました。

昨今、その入込客数はピーク時との比較において半減という状況にはあるものの、相対的には多くの来訪者が訪れている状況です。

現在、加賀市をとりまく状況は、北陸新幹線金沢駅開業と東京オリンピック・パラリンピックの開催決定で、近年、稀にみる好機を迎えております。

あわせてアベノミクスによる好況感も伴い、これまで通りでも、それなりの恩恵には預かることができる状況と思われませんが、それはかつての隆盛を取り戻すまでに至るものではないでしょう。

その大きな要因に人員人材の確保が困難というものがあります。

そして、日本の観光の現状において、国内観光者は、より本質に近い本物を求める成熟した市場となり、かたや日本周辺近隣アジア諸国においては、正に、国民皆観光客といった観光ビッグバンを迎えつつあります。

今、まさに観光の本来あるべき姿である、“訪れてよし、住んでよし、働いてよし”を実感できる環境を整える機会と自覚し、市民一同が緊張感と覚悟を持って望むべき時期を迎えております。

本プランに記した事業の速やかなる行動により、観光振興の実現を図り、加賀市として掲げる目標達成を目指してまいります。